

試験科目：成人看護方法論 4（問題）

試験日：2025 年 11 月 25 日（火）

配点：25 点

15

1. 以下の設問について、正しいものには○を、誤っているものには×をつけてください

- (○) 細胞障害性抗がん薬は、がん細胞だけでなく正常細胞にも作用する
- (○) 分子標的薬は、細胞分裂が盛んな正常細胞に作用するため特有の副作用が出現する
- (○) 根治的治療は、進行・再発がんに対する症状緩和や QOL の向上を目指した治療をいう
- (○) 抗がん薬は安全域が広いので、有害事象が出現しやすい
- (○) 薬物療法における適応基準として Performance Status(PS)は、Grade 3 以下が望ましい

2 点 × 5 問

2. 以下の設問について適切な言葉を選択してください

抗がん薬治療による副作用は、自分でわかる副作用と、検査でわかる副作用に分けられる。治療当日～1週間前後には（①）と（②）に注意し、1週間～3週目までは（③）が副作用として出現しやすい。（④）は、治療開始3週間前後で始まり治療終了まで持続することが多い。抗がん薬の中で最も重篤な副作用は（⑤）であり、初期対応が患者の予後に直結する。

骨髄抑制 食欲不振 口内炎 脱毛 悪心・嘔吐 間質性肺炎					
①	②	③	④	⑤	
悪心・嘔吐	食欲不振	口内炎	脱毛	骨髄抑制	

2 点 × 5 問

3. 以下の設問について、正しいものには○を、誤っているものには×をつけてください

- (×) 抗がん薬投与による悪心嘔吐が予想される患者に対し、食事は投与直後に少量で高カロリーなものを摂取するように指導する
- (×) 抗がん薬投与中の患者に過敏症の症状が出現したが、判断に迷ったため医師の到着までゆっくり投与を続けた
- (×) 口内炎がある時には、痛みが強くなるため歯磨きやうがいなど口腔ケアは実施しない
- (○) 倦怠感がある時には、リラックスできる方法を患者と一緒に模索し、活動と休息のバランスがとれるように看護支援を行う。
- (○) ACP とは、もしもの時にどのような医療やケアを望むかについての患者本人の意思表示であり、家族や信頼のおける人、医療・介護従事者たちが事前に話し合うプロセスのことである

1 点 × 5 問